かるちゃ～ナビ

ザ・見遊（みゅ～）じあむ ……52

道修町の神農さん（大阪市中央区）

今年の干支（えと）はトラ。大阪で古くから薬問屋として栄えた船場の道修町（どしょうまち）には、「神農さん」の名で親しまれている少彦名（すくなひこな）神社があります。毎年の祭礼行事（神農祭）では、笹につけた「張り子の虎」が無病息災のお守りとしてシンボルになっています。江戸時代末期の文政五年には疫病（コレラ）が流行して、多数の病死者が出ました。病名には「虎と狼が一緒にやってくる恐ろしい病気」として「虎狼痢（コロリ）」という文字があてられました。道修町ではこの疫病除けとして、虎の頭骨など10種類の和漢薬を配合した「虎頭殺鬼雄黄圓（ことうさつきうおうえん）」という丸薬をつくり、効能書に一粒ずつ包んで施薬しました。病名も丸薬も虎に関係があるため、神社では「張り子の虎」をつくり、病除けのお守りとして授与するようになりました。「神農さん」に隣接して「くすりの道修町資料館」があり、薬とともに歩んだ道修町の歴史を伝えています。

「張り子の虎」は無病息災のお守り

道修町のシンボル「神農さん」

「張り子の虎」は庶民の信仰に

ミュージアムメモ

「くすりの道修町資料館」▶所在地／大阪市中央区道修町2丁目1番8号▶交通／地下鉄堺筋線・北浜駅6番出口より徒歩2分▶開館時間／10時～16時▶休館日／日曜・祝日、8月13日～16日、12月28日～1月4日▶入館料／無料▶連絡先／06－6231－6958

このシネマがえいが

おとうと

©2010「おとうと」製作委員会

姉と弟を通して家族を描く

この間、「たそがれ清兵衛」「武士の一分」など時代劇作品を撮り続けてきた山田洋次監督の、10年ぶりの現代劇です。この映画について「寅さんシリーズが愚かな兄と賢い妹の滑稽譚（こっけいたん）だったとすれば、今度の『おとうと』は賢い姉と愚かな弟の可笑しくて哀しい物語である」と山田洋次監督は書いています。

早く夫に死に別れたものの東京の郊外で薬局店を営んで一人娘の小春を育て上げた、しっかり者の姉の吟子。一方、大阪でドサ回り一座で役者をしながら、大酒飲みで失敗ばかりしている弟の鉄郎。長く音信不通だった鉄郎でしたが、娘の小春の結婚式で突然現れます。酒を飲まない約束を破って、酒を飲んでしまい酔っぱらって披露宴をぶち壊しに。何をやってもしくじり、迷惑ばかりをかける弟に絶縁を言い渡す姉ですが、それでもいつも気になるのが弟の鉄郎でした…。

ケンカをしたり、許しあったりを繰り返す家族にも、いつかはおとずれるのが死です。弟の鉄郎が大阪で病気で倒れていると聞いて吟子は大阪へ。姉と弟を通して家族のきずなを描きます。映画の後半には通天閣や天王寺など大阪の下町が舞台になっているので、大阪人には親近感がわきます。姉と弟には吉永小百合と笑福亭鶴瓶。とくに鶴瓶はコテコテの大阪弁に、「王将」を歌ったり、国定忠治を演じたりと、大熱演です。

摂津 河内 和泉 おおさか三国誌 52（和泉市・泉大津市）

池上曽根遺跡

弥生時代に栄えた日本有数の環濠集落都市

和泉市、泉大津市を通る国道26号線沿いの一帯は、弥生時代には全国で屈指の規模をもつ環濠集落の一大都市でした。広さは約60万平方メートルと推定され、小国家の単位である「クニ」を形成していました。環濠には竪穴住居が密集し、居住人口は1000人にも及んだと言われています。当時は大阪湾がここからわずか2キロメートルの西方に迫り、太平洋と瀬戸内を結ぶ交通の要所になっていました。居住跡からは、魚を捕る網のおもりや、イイダコを捕る壺が多量に出土し、漁業に関連した加工施設が存在していたこともわかっています。

周囲には当時のハイテク産業であった金属の製作工房も広がっていました。製作された金属器材は祭礼にも使われたため、工房は手厚く保護をされていたと言われています。

1995年には、約80畳の大型掘立柱建物と内径2メートルのくり抜き井戸が発見され、弥生時代の建造物では全国最大級の建物として復元されました。掘立柱は年輪年代測定法によって紀元前52年に伐採されたことが判明し、弥生時代の環濠集落の形成時期をめぐる研究にも大きな影響を与えました。2000年前に栄えた環濠集落都市が現在、日本の第一線の考古学者らの手によって復元され、国の史跡にも指定されて、当時の姿をよみがえらせています。

80畳分の広さをもつ大型掘立柱建物

大阪の戦跡を歩く 第51歩

茶毘の跡地に立つ石碑

千人つか（大阪市旭区）

菅原城北大橋の傍、城北公園から登った堤防横の広場に「千人つか」と記した石碑が建っています。第二次世界大戦の末期、1945年（昭和20年）6月7日、大阪市北東部にアメリカの戦闘機（B29）が来襲し、旭区、都島区、淀川区、北区、豊中市などに2600トンの爆弾を落とし、約3000人の市民が亡くなりました。この空襲で亡くなった多くの人は、この碑のあった場所に運ばれて茶毘（だび）に付されました。茶毘の黒煙は、3日3晩に及んで立ち続けたそうです。

いまも心に響く名詩・名歌・名語録

苛政は虎よりも強し

昔から虎は「恐ろしい生き物」として知られていて、「虎穴に入らずんば虎児を得ず」「市に虎を放つ如し」など、その存在の危うさを表現したことわざが多くあります。しかし虎よりも恐ろしい存在は人間です。「苛政は虎よりも強し」とは、為政者の過酷な政治が虎よりも人々を苦しめることを表したことわざです。

虎は子を思うて千里を帰る

虎は一日に千里を走るが、巣穴にいる自分の子を思って、また千里を走って帰ってくるという意味のことわざ。親の子を思う気持ちの強さをたとえた言葉です。もっとも、人間は一日に千里（約4000キロ）を走ることなどできませんが、親の子を思う気持ちは、けっして虎には負けません。